公益社団法人
東京都理学療法士協会

NO.229

都士会News

2024.2.25 発行
◆発　行　公益社団法人
　東京都理学療法士協会
◆発行人　森島　健
◆編集人　井出　大
医療法人社団永生会
法人本部　地域支援事業部
〒193-0942
八王子市椚田町 590-4
TEL :042-661-4025

第５９回日本理学療法学術研修大会は東京都理学療法士協会が担当致します

大会ホーページ　https://smartconf.jp/content/nichiken59

第 59 回日本理学療法学術研修大会 in 東京

技能がつなぐ未来への進歩

～理学療法士としての価値軸を育む～

Tokyo
Japan

日時　2024年6月29日（土）30日（日）
会場　東京国際フォーラム

大会長　豊田 輝　帝京科学大学
副大会長　池田由美　東京都立大学
準備委員長　岡安 健　東京医科歯科大学病院

229 号の目次

日本理学療法学術研修大会準備委員 …… 1
第４３回東京都理学療法学術大会準備委員会 …… 2～3
倫理委員会 …… 4～5
地域活性局 ブロック・支部活動 …… 4～22
福祉保健局障害福祉部 …… 22～23
地域包括ケアシステム推進委員会 …… 24
スポーツ局 …… 25～26
スポーツ局人材育成部 …… 27～28
スポーツ局スポーツ支援・推進部 …… 29～37
スポーツ局パラスポーツ部 …… 38～39
スポーツ局子どもの健康・安全部 …… 40～49
健康増進部 …… 50～51
渉外局医療報酬部 …… 52～57
学術局学術誌編集部 …… 58～59
編集後記 …… 59

第 43 回東京都理学療法学術大会のご案内（第２報）

第 43 回東京都理学療法学術大会
テーマ：「みんなでつなぐ理学療法のエビデンス」
会　期：2024 年 9 月 14 日（土）～ 15 日（日）
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター
https://nyc.niye.go.jp/wp/
大会長：今井覚志（慶應義塾大学病院）
副大会長：山中誠一郎（初台リハビリテーション病院）
準備委員長：渡辺重人（東京リハビリテーションセンター世田谷）

URL：tsunagu-43.tokyo
一般演題募集期間：2024 年 3 月～ 5 月（予定）

本大会は，みんなでエビデンスをつなぐための交流・学習の場として企画・準備してまいります。2024 年 2 月現在，講演 8 つ，メインシンポジウム 3 つ，教育セミナー 4 つ，シンポジウム 5 つ，都民公開講座 1 つ，ワークショップ 2 つを企画しております。また，車椅子バスケなどのパラスポーツ体験，交流イベント，ハンズオンセミナーなども開催する予定です。詳しくはホームページ（tsunagu-43.tokyo）をご覧ください。コロナによる学会離れ，協会入会率の低下，働き方改革など，学術集会を取り巻く環境は年々厳しくなっております。理学療法士の仲間が再び集い，共に悩み共に歩んでいける場にしたいと願っております。
一般演題は，3 月から 5 月にかけて募集いたします。発表者には，特別なネームホルダーでご参加いただく予定です。また発表者ラウンジを開設し，発表準備や，他の発表者や座長との交流にご利用いただきます。発表される先生は特別な一日を過ごしていただければ幸いです。症例報告を含めて，多くの先生のエントリーをお待ちしております。

第 43 回東京都理学療法学術大会のご案内（第２報）

委員長　齋藤　弘樹

倫理委員会からのお知らせ

倫理委員会では、理学療法士の倫理厳守の意識を高めることを目的として「倫理規定」等に関する啓発活動を実施しています。
新年度におきましては、職場内にて新入職者に対して研修などを行う施設もあるかと思います。是非とも職場内においても倫理について共有する機会をつくって頂けたらと思います。

○公益社団法人 日本理学療法士協会から倫理綱領が定められていますので、職場内でも共有して頂きたいと思います。(以下、日本理学療法士協会 HP より)

倫 理 綱 領

公益社団法人 日本理学療法士協会

序 文

公益社団法人 日本理学療法士協会（以下、「本会」という。）は、理学療法士の社会的な信頼の確立と、職能団体としての本会が公益に資することを目的として、「倫理綱領」を定める。本会ならびに理学療法士が、高い倫理感を基盤として相互の役割を果たす中で、理学療法の発展と国際社会への貢献のために、より良い社会づくりに貢献することを願うものである。

一、理学療法士は、全ての人の尊厳と権利を尊重する。
一、理学療法士は、国籍、人種、民族、宗教、文化、思想、信条、家柄、社会的地位、年齢、性別などにかかわらず、全ての人に平等に接する。
一、理学療法士は、対象者に接する際には誠意と謙虚さを備え、責任をもって最善を尽くす。
一、理学療法士は、業務上知り得た個人情報についての秘密を遵守し、情報の発信や公開には細心の注意を払う。
一、理学療法士は、専門職として生涯にわたり研鑽を重ね、関係職種とも連携して質の高い理学療法を提供する。
一、理学療法士は、後進の育成、理学療法の発展ならびに普及・啓発に寄与する。
一、理学療法士は、不当な要求・収受は行わない。
一、理学療法士は、国際社会の保健・医療・福祉の向上のために、自己の知識・技術・経験を可能な限り提供する。
一、理学療法士は、国の動向や国際情勢を鑑み、関係機関とも連携して理学療法の適用に努める。

○東京都理学療法士協会　倫理規定はこちら　⇒倫理規定 .pdf (pttokyo.net)
○日本理学療法士協会　倫理啓発・ポスターはこちら　⇒理学療法士の倫理に関する取り組み｜協会からのお知らせ｜公益社団法人 日本理学療法士協会 (japanpt.or.jp)
○医道審議会（理学療法士作業療法士倫理部会）はこちら　⇒
医道審議会 (理学療法士作業療法士倫理部会)｜厚生労働省 (mhlw.go.jp)

倫理委員会からのお知らせ

報　告

局長　中澤 幹夫

区中央部・区南部・島しょブロック部
大田区支部 第 40 回大田区区民スポーツまつりにおけるセミナー

日時：２０２３年１０月９日
場所：大田区立大森第三中学校
講師：２名　サポートスタッフ：３名
内容：大森第三中学校で区民スポーツまつりに蒲田リハビリテーション病院 PT の５名で参加してきました。このイベントは区民の方が体力テストを行うイベントです。私たちは主に血圧測定、準備運動、ステージで腰痛体操を担当させていただきました。あいにくの雨で参加者は例年に比べて少なかったのが残念でしたが、血圧に対する悩みや腰痛に対する悩みに対して、話しを聞く場面もあり、区民の方達と交流を持てました。
来年は是非天気がよい状態で行い、多くの方達と交流を持てたら嬉しいなと感じました。
報告者：蒲田リハビリテーション病院　三科　翔
場所：大田区立萩中小学校
サポートスタッフ：３名
内容：大田区民スポーツまつりにおいて、池上総合病院より理学療法士３名が参加しました。
本会場では体力測定や健康相談、体組成測定器による筋力量や体脂肪量の測定などを行っており、私たちは主に健康相談や血圧測定を行いました。
当日は雨天であったため、予想されていた人数よりも少ない参加者となりましたが、来場者の中には血圧や筋力、バランスの推移に関心をもっており、昨年度と比較している方々が見受けられました。
来場者の方から「丁寧に教えてくれてありがとうございます」「これからも実践してみます」などお褒めの言葉は我々の励みになりました。今後も地域住民の皆様の役に立てるよう精進してまいります。

報告者：髙橋　悠輔（池上総合病院）

報　告

局長　中澤 幹夫

西多摩南多摩ブロック部
羽村市支部　はむら Enjoy ウォーキング

期　　日：第 1 クール 2023 年 4 月 16 日～ 7 月 23 日（全 4 回）
　　第 2 クール 2023 年 9 月 24 日～ 11 月 26 日（全 4 回）
参加都民：第 1 クール 22 名、第 2 クール 19 名
スタッフ：各回理学療法士 5 ～ 6 名、羽村市保健師 1 ～ 2 名
内容：都民の運動実施・継続、健康意識向上を目的として、羽村市健康課との共催でウォーキング教室を開催しました。全 4 回の教室を 2 クール開催し、各回、運動の実施・継続に繋がるような講座とグループでのウォーキング実践を行いました。理学療法士は講座講師とウォーキング帯同を行いました。運動習慣のある参加者が多かったのですが、普段行っているウォーキングや運動が適切であるか知りたいという方が大半で、強度・速度・頻度・フォームなど具体的な運動方法に関する質問が多く挙がりました。運動習慣の少ない参加者は、その過半数が教室期間中で運動機会が増加しました。市役所保健師からは市民健診の必要性、健康増進に関連した市のイベント等の紹介があり、回を重ねるごとに参加者の健康意識が高まっていく様子を肌で感じることができました。

報告者：佐藤文雄（羽村三慶病院）

報　告

局長　中澤 幹夫

西多摩南多摩ブロック部
羽村市支部　健康セミナー

日時：令和 5 年 12 月 16 日（土）14：00 ～ 16：00

会場：羽村市産業福祉センター

参加者：一般都民 20 名

スタッフ：羽村市支部 PT6 名

内容：都民を対象とした「ひざ痛セミナー」を対面開催し、講義と実技を行いました。コロナ禍の支部セミナーはオンライン開催でしたが、今年度は対面開催ができました。「姿勢と運動」をキーワードに、講義では痛みと姿勢の関連性、痛みの原因や種類、セルフケア方法、生活上の工夫を紹介しました。実技では姿勢のチェックや柔軟性のセルフチェックを行った後、ストレッチや筋トレを行いました。最後には音楽に合わせて体操を行い、朗らかな雰囲気でのセミナーとなりました。質疑も活発におこなわれ、現地開催の良さを感じました。参加者アンケートから、興味のある健康テーマを知ることができ、次年度も参加したいという方が大半でしたので、次年度も継続実施していきます。

報告者：奥野美咲（羽村三慶病院）

報　告

局長　中澤 幹夫

区東北部・区東部ブロック部
介護労働者に対する介護法指導講座

日　　時：2023 年 12 月 6 日（水）
会　　場：船堀コミュニティ会館
講　　師：笠原剛敏（東京臨海病院）

アシスタント：理学療法士 4 名
参加者：27 名
内容：江戸川区内に勤務する訪問介護職員、施設・事業所介護職員を対象に、介護労働時の介助法指導を実施しました。今回は事前に行ったアンケート結果をもとに『車椅子・トイレの移乗動作』について講義を行いました。またグループに分かれて福祉用具事業所の協力もあり実際の現場に近い環境の中で介助方法の指導も行いました。各施設で抱える問題や対処法など意見交換を交えながら積極的に取り組んでいました。一つの動作介助だけでなく、その方法が他の介助場面にも役立つことや応用できることを知り、参加者の方々から驚きの声が聞かれていました。江戸川区内の介護職員が健康で長く勤務していけるように勉強会を実施し、貢献できればと思います。

報告者：佐藤　祐（森山脳神経センター病院）

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤 幹夫

西多摩南多摩ブロック部
多摩市支部　多摩市医療系防災訓練の参加

日時：令和 5 年 10 月 29 日（日）
場所：東京都多摩市
参加スタッフ：4 名
内容：
コロナ禍以来、4 年ぶりに多摩市医療系防災訓練が開催され、事前会議からトリアージ研修会、防災訓練当日まで参加しました。本会以外にも、多摩市役所、多摩市医師会、多摩市歯科医師会、多摩市薬剤師会、東京都柔道整復師会南多摩支部など多くの団体が参加し有意義な訓練となりました。日本医科大学多摩永山病院、桜ヶ丘記念病院など地域の拠点病院や東京医療学院大学、国士舘大学などの地域の医療系大学が参加し、それぞれに所属する医療職が災害時の緊急医療救護所でどのような役割を担えるのか、確認をしながら訓練を行いました。災害が起こるその時に、理学療法士も緊急医療救護所の設置や運営に携わっていくために、来年以降も関係機関と協力しながら、防災訓練に参加していきたいと思います。

報告者：生友聖子（東京医療学院大学）

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤 幹夫

区西北部ブロック部
板橋区支部　ウィメンズヘルス教室

日時：2023 年 7 月 5 日、9 月 20 日、10 月 26 日、12 月 12 日、1 月 23 日、2 月 7 日
場所：板橋区児童館
参加者：108 名
担当：板橋区支部　理学療法士　各会場 1 名、計 7 名
内容：板橋区児童館 CAP'S において、子育て支援教室として、7 児童館にて講座を開催しました。本講座は、「産後の母親の身体ケア講座～骨盤底筋体操をしよう～」と題して、産後の尿漏れ予防を目的に産前・産後の身体変化についての知識的講義、抱っこ・授乳など育児時の姿勢や骨盤底筋群運動の実技といった、日常的に取り組むことができるような内容を提供しました。乳幼児とともに参加するスタイルであったため、児童館職員に母子のサポートを頂きながら、無事に全講座を終えることができました。抱っこひもの使用についての助言について好評であり、理学療法士の専門性を活かした活動でもあるため、引き続き取り組めればと思います。

報告者：板橋区支部員　林依子　（板橋ロイヤルケアセンター）

区西北部ブロック部
豊島区支部　フレイル予防機器活用講座

場所：豊島区内の区民ひろば計 18 カ所
のべ参加者数：210 人
講師・アシスタント：のべ 36 名（豊島区支部員）
事業総括者：村本幸祐
内　容：
豊島区内の各区民ひろばに介護予防事業の一環として設置されているフレイル対策機器（NEC 社歩行姿勢測定システム・タニタ社ザリッツの計 2 種）に関する結果の見方や結果に応じた運動を紹介するこのフレイル対策機器活用講座も今年度で 3 回目になりました。今年も昨年度に引き続き豊島区の区民ひろば計 18 カ所にて歩行姿勢測定システムとザリッツの講座を行いました。今年度は延べ 210 名と多くの方に参加して頂き介護予防に対する区民の方々の関心の高さが伺えました。また区民ひろばの職員の方々のフレイル機器に関する習熟度も高まってきておりそれぞれの区民ひろばが独自の工夫で機器を積極的に活用している様子も伺うことが出来ました。来年度も引き続きこちらの事業を委託頂くことが決定しておりますので、引き続き機器の理解をさたに深めるための講座や適切な介護予防に関する運動療法を楽しくお伝えしていければと考えています。

報告者：村本　幸祐（ゆみのハートクリニック）

区西北部ブロック部
豊島区支部　転倒予防教室前編・後編

場所：高田介護予防センター、東池袋フレイル対策センター、区民ひろば千早
開催数：各施設（前編・後編２回）　全６回
のべ参加者数：111 人
講　師：田邊泰雅・川名健（目白整形外科内科）、渡邊寿彦・村本幸祐（ゆみのハートクリニック）、片見奈々子（都立大塚病院）、鈴木享之（長汐病院）、
アシスタント：芳野純（帝京平成大学）、布施彩音（目白整形外科内科）
事業総括者：渡邊寿彦
内　容：
各開催場所にて前編・後編の２部制で計６回の事業となりました。
今回の企画のコンセプトは「何より楽しい、印象に残る講座」に、柔軟性の「軟」、筋力の「筋」、バランスの「均」を合わせた「軟力筋（なりきん）」エクササイズを中心とした体験型の講座となっています。まず冒頭では「軟」に応答するシット＆リーチテスト、「力」に応答する座位ステッピングテスト、「均」に応答にする２ステップテストを行い、その結果を踏まえて、自己分析チェックシートを用いて自己の強み、弱みを分析します。その後は、転倒の疫学・知識を確認し、最後に皆で「軟」「力」「均」に応答するエクササイズを実施します。後編では座学を短縮し、よりエクササイズに重点を置いた開催としています。今回の支部としての提案は、通いの場にて楽しく運動することが筋力アップに繋がる「成筋」であり、転倒予防に繋がれば経済的効果となり「成金」であることとして講座をまとめています。

報告者：渡邊　寿彦（ゆみのハートクリニック）

区西北部ブロック部
豊島区支部　イキイキ講座（区民ひろば仰高）

日時：2023 月 7 月 25 日、10 月 31 日、2024 年 1 月 31 日　全 3 回
講師：渡邊寿彦、犬塚遼太、土田美裕喜（ゆみのハートクリニック）
事業総括者：渡邊寿彦
内容：
イキイキ講座とは人生 100 年時代といわれる昨今の情勢を鑑みて、より多くの豊島区民が運動を通じてイキイキとした生活できるなることを目的にしています。講座は全 3 回で、1 回目は転倒予防、2 回目はカッコよく歩く、3 回目はスポーツをテーマとしたステップアップ式の内容となっています。
1 回目の主な内容：転倒予防に関連する知識、転倒リスクのセルフチェック、エクササイズ
2 回目の主な内容：姿勢改善のアドバイス、俊敏力アップ、2 重課題エクササイズ
3 回目の主な内容：輪投げ、卓球を用いた簡単なゲーム・スポーツ
こちらの趣旨として支部の目標でも「0 歳から 100 歳までのサポート」であり、今回は高齢者をメインターゲットにしていますが、3 回目の内容に関しては意図的に本人だけでなく、ご家族とも一緒にできる内容として、全世代のサポートを担う一助になるようこの講座をきっかけに事業を推進していきます。

報告者：犬塚　遼太（ゆみのハートクリニック）

区西北部ブロック部
豊島区支部　区民ひろばにおける運動器の健康増進支援講座

「パパといっしょにからだを動かして遊ぼう」
日時：2023 年 4 月 15 日 (土) ～２０２４年２月 24 日 (土)　全 10 回　10:30 ～ 11:30
場所：区民ひろば千早
対象：2 歳～ 5 歳の親子（父親と幼児）
のべ参加者数：97 人
講師：鈴木享之 (長汐病院)
アシスタント：片見奈々子（都立大塚病院）、永野加奈子（都立大塚病院）、村本幸祐（ゆみのハートクリニック）
内容：まず、この講座依頼の経緯としては、別事業のフレイル予防講座を行ったあとに同じ建物内の２階にある子どもひろばを見学させて頂きました。その際「パパさん達が参加できる子どもと遊べる講座を行いたいのだが、講師を探すのが大変なのです」と言うお話しからこの講座を行うチャンスを頂きました。時代と共に変化する子どもの発達発育について「遊び」と共に学び、育児における男性の関りも多種多様化する時代に合わせ、ご自宅でも行える内容としました。
基本的には、土曜日の午前中、お父さんとお子さんが一緒に参加して遊ぶ講座です。遊びを通し、お父さん方には「褒める」「笑顔を作る」「撫でる・くすぐるなどのスキンシップ」の大切さを知って頂き、お子さん方には「たつ・おきる・まわる・くむ・ぶらさがる等」神経発達が著しい年代に大切な基本的な動きを取り入れた「遊び」を体験して頂く内容になっています。最初は慣れないパパさん達も途中から積極的に動きのアレンジを行うようになり、子ども達の笑い声が響く楽しい場となりました。

報告者：鈴木享之（長汐病院）

報　告

局長　中澤 幹夫

区西北部ブロック部
北区支部　理学療法士による介護予防体操教室

日時：2024 年 1 月 18 日（木）
会場：東京都障害者総合スポーツセンター体育館
講師：渡邊祐介　補助：岩山　睦
参加者：15 名
内容：この度は東京都障害者総合スポーツセンターの介護予防教室として障害者の方々を対象に今年度３回目になる体操教室を実施して参りました。今回は椅子に座ってできる肩の運動を実施しました。今回はノリの良い曲を流しながら肩をリズミカルに動かしました。参加者の方からは「肩まわりのすごく良い運動になった！それでいて、次の日痛くならなかった！」と障害者総合スポーツセンターの方を通して、後日ご連絡を頂き、大変嬉しく思っております。
好評の教室とのことで、来年度は全 5 回、1 回あたりの教室の参加者は 20 名と規模を拡大して欲しいとご要望頂いております。引き続き、参加者の皆さんに楽しんで頂きながら実施できればと思います。

報告者：北区支部　渡邊祐介（浮間中央病院）

区西北部ブロック部
北区支部　東京赤羽ハーフマラソンのサポート & 相談会

日時：2024 年 1 月 21 日（日）
大会名：第 15 回東京・赤羽ハーフマラソン大会
主催者：北区陸上競技会
場所：北区荒川河川敷
参加者数：1997 名（ブース来場者 116 名）
参加スタッフ:24 名 (区西北部ブロック部･スポーツ局・学生)
内容：昨年の第 14 回東京・赤羽ハーフマラソン大会に引き続き 4 回目のサポートとなりました。今年は悪天候であったためマラソンの完走者は 1975 名でした。悪天候の中、116 名の参加者が理学療法士ブースを利用してくれました。
サポート内容は大会前の身体の相談、大会後のストレッチやマッサージを提供することができました。ブースを利用した参加者から感謝のお言葉をたくさん頂けました。
多くの参加者は手足を露出して走っていたため、ブース来場者の方の身体は冷え切っていました。身体を冷やさないようにタオルや毛布等を利用してマッサージやストレッチの対応をさせて頂きました。悪天候時にも参加者の身体のケアを万全にできるよう今後もサポートしていきます。

報告；野崎剛志（大橋病院）

報　告

局長　中澤 幹夫

区中央部・区南部・島しょブロック部
大田区支部研修会①テーマ：『若手向け　Mulligan Concept に触れよう』

日時：2023 年 9 月 11 日（月）19：00 ～ 21：00
場所：牧田リハビリテーション病院
講師：中山　孝氏　（理学療法士、東京工科大学教授, Mulligan Concept 公認講師）
参加者：31 名
内容：若手療法士が少しでも臨床のヒントになり、Mulligan Concept を知るきっかけになればということで、数年ぶりに WEB ではなく集合での実技研修会が開催されました。
Mulligan Concept とは、徒手療法の一つで関節を正しい位置に修正し痛みが出ない状況で自動運動をさせ、疼痛や関節可動域の改善を図るという手技です。講義の中では Mulligan Concept だけではなく、海外徒手療法や中山先生が今まで培われた臨床のお話しを聞くことができ、大変勉強になりました。
実技では、頸部や肩関節、股関節、膝関節、足関節といった、幅広い関節の徒手療法を学ぶ事ができました。実際の実技練習では、対象者に不快感を与えてしまったり、上手く治療に落とし込めなかったのでまだまだ練習が必要だと実感しました。
また、今回の研修を通して中山先生が常々仰ってたのが、１つの徒手療法だけではなく、いくつもの徒手療法や手技を提供しなければ、患者様は良くらないとの事でした。
今回の研修会で Mulligan Concept を知り、もっと多くの知識や技術を高めたいという気持ちになりました。

報告者：藤田敦也（牧田リハビリテーション病院）

報　告

局長　中澤 幹夫

区中央部・区南部・島しょブロック部

大田区支部研修会②テーマ：一歩踏み出す脳卒中の理学療法～歩行再建を中心に～

日時：2024 年 1 月 16 日（火）19：00 ～ 21：00
場所：(医) 仁医会 牧田総合病院　くすのきホール
講師：髙橋忠志氏（地方独立行政法人　東京都立病院機構　東京都立荏原病院）
参加者：53 名（理学療法士）

内容：今回は『一歩踏み出す脳卒中の理学療法～歩行再建を中心に～』と題し、脳卒中領域の第一線で活躍されている髙橋忠志先生を迎えご講演いただきました。

座学 2 部構成で行われた本研修会では、第 1 部で正常歩行と脳卒中の異常歩行パターンについての基礎的な知識を、第 2 部で各パターンに応じた実際の介入方法をたくさんの資料と共にわかりやすく丁寧に講義していただきました。最新のエビデンスや自験例を用いた内容で、若手セラピストだけでなく中堅以上のセラピストにとっても非常に学びの多い内容でした。

また講義後には、現場で遭遇する症例についての相談など、実践的なディスカッションが活発に行われ、満足度の高い研修会となりました。

2024 年度も引き続き大田区支部では知識・技術の向上に向けた研修の企画を行っていきたいと思います。

報告者：箕輪俊也（JCHO 東京蒲田医療センター）

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤 幹夫

区中央部・区南部・島しょブロック部
大田区支部 介護予防・健康増進研修会

テーマ：ウィメンズヘルスケアの包括的アプローチ　～予防とケアの視点～
日時：2023 年 12 月 8 日（金）19：00 ～ 21：00
会場：Web 開催（zoom 使用）
講師：布施　陽子　氏　認定理学療法士（運動器）
文京学院大学保健医療技術学部理学療法学科　助教
国立大学法人電気通信大学情報理工学研究科情報学博士後期課程修了（工学博士）
東京北医療センターリハビリテーション室　勤務（非常勤）
参加者：理学療法士 39 名

内容：女性特有疾患に対するウィメンズヘルスケアの分野の先駆けとして研究や臨床、執筆、啓発活動にと多方面で奮闘されている布施先生をお招きし、女性の健康増進について学ぶ機会を設けました。妊婦さんのケアや相談を通じた経験と、大学教員として学生を指導する立場を通して、ウィメンズヘルスケアについて解説いただきました。産前産後の身体的な変化から、実技を交えた骨盤底筋群の評価から機能訓練まで、短い時間でしたが密度の濃い研修会となりました。

男性の参加者も多く、女性特有のライフステージにおける身体的な変化を理解することで治療やコミュニケーションの取り方にも良い変化をもたらすことができるようになるものと感じました。ウィメンズヘルスという分野が、より多くの方々に興味を持っていただけるように今後ともお力添えができればと思います。

大田区支部では、引き続き「介護予防・健康増進」に関する研修会を開催いたします。引き続きよろしくお願いいたします。

報告者：松下 佳介（東急株式会社 東急病院）

区西北部ブロック部
研修会①

日時：2023 年 12 月 20 日（水）
テーマ：「循環器領域における栄養管理～生活期での介入実践もふまえて～」
形式：Zoom を用いたオンライン
講師：肥後太基 氏（ゆみのハートクリニック　医師）
　　渡邊寿彦 氏（ゆみのハートクリニック　理学療法士）
参加者：理学療法士 30 名
概要：

区西北部ブロック部では、例年会員向けの研修会を実施しております。今回は、「循環器領域における栄養管理～生活期での介入実践もふまえて～」をテーマに、ゆみのハートクリニックの医師の肥後太基先氏、理学療法士の渡邊寿彦氏に講師を依頼し、オンライン形式で実施しました。

肥後氏からは、循環器の生理学的機能から評価すべき点、理学療法を行う上で注意して診るべき点などを大変わかりやすくご講演頂きました。また、栄養管理においては塩分量を意識することも大切だが継続して摂取可能なメニューを考慮することも非常に重要であることもご提示頂きました。渡邊氏からは、実際の生活期でのケースを挙げて頂き、参加者とともに問題点やアプローチについて考察をしながらご講義をして頂きました。特に、慢性心不全患者様の自宅内の環境を整えることやキャラクターも理解した上で生活指導を行うことの重要性を学ぶことができました。

講演後の質疑応答では、参加者から多くの質問があり、より具体的な助言方法や介入方法についてのアドバイスを頂くことができ、非常に有意義な時間となりました。

区西北部ブロック部では、今後も会員のスキルアップのために充実した研修会を実施していきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

報告者：古庄秀明（公益社団法人地域医療振興協会　練馬光が丘病院）

区西南部・区西部ブロック部
症例検討会

日時：2024 年 1 月 13 日（土）
会場：慶應義塾大学信濃町キャンパス
参加者：83 名（東京都理学療法士協会会員 64 名、他県士会員 18 名、非会員 1 名）
内容：①症例検討会　7 演題
　　②特別講演『症例検討・研究のすすめ方』　講師：北地 雄　氏（総合東京病院）

区西南部･区西部ブロック部では、日本理学療法士協会の生涯学習制度「後期研修 E　領域別研修（事例）」に該当する症例検討会を開催しました。当日は 2 つの会場に分かれ、計 7 演題（内部障害系理学療法学 1 演題、神経系理学療法学 3 演題、運動器障害系理学療法学 3 演題）の発表・討議が行われました。各演題では十分な討議時間が設けられているため対面ならではの参加者と発表者・座長との活発な意見交換となり、症例を通して学びを深めることができ、また地域の施設の状況を知る良い機会が生まれたと思います。参加者は後期研修中の理学療法士が多く、症例報告や研究に興味・関心を持ってもらうために『症例検討・研究のすすめ方』をテーマに特別講演を企画しました。講師の北地先生のご経験をもとに、日頃の臨床の疑問点からどのように研究に繋げるか、文献検索の方法などまでと盛りだくさんの内容をわかりやすくご講義いただきました。講師・座長・発表者の先生方、会場を提供してくださった慶應義塾大学病院の先生方、ありがとうございました。

報告者：廣瀬幸子（玉川病院）

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤 幹夫

区西南部西部ブロック部
杉並区支部　第二回杉並支部研修会「通いの場」介護予防事業運営報告会

日時：２０２４年1月１９日
場所：杉並区役所＋ ZOOM
地域報告者：４名　現地参加：２２名　WEB 参加：９名
内容:「通いの場」介護予防事業運営報告会を開催しました。実際に地域事業に関わっているセラピスト、地域包括の保健師、フレイルサポーター当事者がそれぞれの立場で報告を行ってもらいました。運営での悩み、新たな地域資源の発掘、セラピストとのつながりなど様々な発見のある会でした。

報告者：杉並区支部支部長　大澤　諭樹彦（老健くぬぎ）

福祉保健局障害福祉部

報　告

部長　工藤　弘之

福祉保健局障害福祉部
障害福祉部研修会開催報告

【日時】2024 年 2 月 9 日（金）　18：45 ～ 20：15
【タイトル】障害年金 請求のポイント
【講師】中村 美恵子　先生
（特定社会保険労務士　東京中央障害年金・中村事務所）
【会場】武蔵野プレイス　フォーラム
【参加者】17 名
【内容】
　障害福祉部では、今回「障害年金」をテーマに研修会を開催いたしました。
当日は、障害年金の概要から受給要件、請求の方法、提出書類についてなど、わかりやすくご講義いただきました。また、副代表にもご協力いただき、受給事例について代表的な事例を取り上げてご説明いただいたことで、請求の流れが非常にイメージしやすくなりました。また、その中で診断書は非常に重要ということであり、理学療法士としても理解しておいた方がよい知識であることを改めて実感いたしました。普段、直接関わることは少ないテーマではありましたが、多くの事前質問もいただき、また当日の質疑応答も活発に行われました。

報告者：工藤　弘之（大久野病院）

福祉保健局障害福祉部
障害者就労支援施設見学会報告

【日時】2024 年 1 月 15 日（月）　14：30 ～ 16：00
【見学施設】一般社団法人一粒福祉会　ワークオアシス　アレーズまほろば
【参加者】5 名
【内容】

障害福祉部では、毎年障害者就労支援施設見学会を開催させていただいており、今年度は、障害者総合支援法の生活介護、就労継続支援 B 型の施設に見学に伺いました。

当日は、普段行っている古本回収から販売までの流れや、商品の袋詰め作業の様子を見学させていただきながら、普段のご様子をご説明いただきました。

一通り見学をさせていただいた後、管理者の方と施設に関わっていらっしゃる理学療法士の方に、普段の関わりや障害のある方の支援で大切にしていることなどお話いただきました。その中で、参加者からの質問にもお答えいただき、非常に有意義な時間となりました。

報告者：工藤　弘之（大久野病院）

報　告

副会長　田代　文子

地域包括ケアシステム推進委員会
東京新聞ヘルスケアメイツイベント

東京新聞の読者を対象に、介護予防事業を展開することになり地域包括ケアシステム推進委員会と福祉保健局高齢福祉部が協力して、体力測定･健康講座 (体操指導)･ボランティア講座を行った。今年度 3 回目の実施

日　時：2023 年 12 月 17 日（日）14:00 ～ 16:30
（13:00 開場・体力測定実施）
場所：東京新聞（中日新聞東京本社）１F ホール
（千代田区内幸町２－１－４ 日比谷中日ビル）
定員：50 名（参加者 20 名・ボランティア５名　×２グループ
※無料（事前申込制）
主催＝東京新聞　協賛＝ PR セミナー（最大２社）・その他各社

【運動プログラム】
テーマ：フレイル・介護予防
座学　＋　体操　＋　質問コーナー
講師：東京都理学療法士協会

局長　板倉　尚子

【2024 年度スポーツ局　登録者募集中！】

スポーツ局事業への参加を希望される方はスポーツ局からご案内をお送りしますので、ご登録をお願いします。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeytUASLU_qBIzpqjcUHuTtzaKViiQvANVIC3TcRXb_gQvqVg/viewform?usp=sf_link

※スポーツ局事業の詳細は都士会ニュースにて紹介しています。

※ご登録の皆様も登録情報更新のためご登録宜しくお願い致します。

＜登録内容＞

・メールアドレス、氏名、ふりがな、会員番号、所属先、所属支部

＜ご案内事業＞

●スポーツ理学療法研修会

(ブラッシュアップ研修会、技能テストなどなど)

●地域スポーツのサポートスタッフ

(ユニバーサルタイム、パラスポーツ初心者教室などなど)

●都内小中学校での児童生徒への運動指導補助スタッフ

スポーツ理学療法研修会

地域スポーツサポート

東京都理学療法士協会　スポーツ局

登録者募集中！

こちらをクリック！

https://x.gd/zAAKn

スポーツ局の活動に一緒に参加してみませんか！

都内小中学校の運動指導

フェンシングサポート

公益社団法人
東京都理学療法士協会

[活動報告]「スポーツ理学療法認定カリキュラム」について

日時 / 形式]2024/1/14 WEB 研修会
2024/1/20 WEB 研修会
2024/1/21 WEB 研修会
2024/1/27 対面研修会 (日本大学文理学部キャンパス)
2024/1/28 対面研修会 (日本大学文理学部キャンパス)

[講師]

WEB 研修会：板倉尚子先生、鈴木享之先生、水石裕先生、大堀裕太先生（スポーツファーマシスト）、渡邊祐介先生、瀧口耕平先生、生井真樹先生、村本勇貴先生、鈴木章先生、中山修一先生（整形外科医）、杉山弘樹先生

対面研修会：佐藤正裕先生、小山貴之先生、千葉慎一先生、相澤純也先生、笹代純平先生、佐保泰明先生、宮森隆行先生、上倉將太先生

[参加者] 東京都理学療法士協会員 2 名

[内容]

スポーツ理学療法認定カリキュラムを開催させて頂きましたので、ご報告させて頂きます。
東京都理学療法士協会スポーツ局は、日本理学療法士協会新生涯学習制度における認定理学療法士 (スポーツ) 臨床認定カリキュラムの教育機関に認定されています。

WEB 研修会 3 日間＋対面研修会 2 日間の全 5 日間の研修会を企画しました。
内容は、必修・選択科目で計 23 科目あり、スポーツ理学療法の歴史から選手のコンディショニングを向上させるためのハイパフォーマンストレーニング、現場で使用するテーピングなど実技を交えて、日々の現場で活かせる内容となっておりました。

今回、講師をして頂いた先生方、対面研修会で会場をご提供いただきました日本大学の小山先生にこの場をお借りして、心より感謝致します。

次年度もスポーツ理学療法認定研修会を開催させて頂きますので、スポーツ現場に出られている先生方は、奮ってご参加頂ければと思います。

写真：WEB 研修会　(板倉尚子先生)

写真：対面研修会　(小山貴之先生)

東京都理学療法士協会　スポーツ局　人材育成部　部長　岩山　睦 (浮間中央病院)

【活動報告】スポーツ現場で安全・適切な対応をするための技能テスト

日時 :2023/12/19 19:00 ～ 21:00

場所 : 東京体育館第 2 会議室、第 4 会議室

検定員：板倉尚子先生、鈴木享之先生、生井真樹先生、齋藤弘樹先生

アシスタント：鈴木真治先生、森本孝則先生、平良寛朗先生、柏瀬珠希先生

参加者 :13 名 (合格者 12 名)

内容：

スポーツ局人材育成部では、都士会会員をスポーツ現場へ派遣するにあたり、スキルが担保されているかを確認するため " スポーツ現場で安全・適切な対応をするための技能テスト " を実施しております。スポーツ現場でサポートするうえで、選手やサポートスタッフが安心･安全に活動が出来るための技術や、負傷者に対する迅速かつ正確な評価を行う知識と技術を有しているかを確認します。

私はこの技能テストを受検し、固定法、搬送法、テーピング、シナリオテストの 4 つの検定項目にチャレンジし、スポーツ局の講師の先生方に評価して頂きました。

テストということもあり、緊迫した空気感や緊張感が実際の現場と似ていることもこのテストの大きな特徴と感じました。テスト受検後に、東京赤羽ハーフマラソンの現場に参加させていただいたのですが、他の受検者の方も「テストでやったシナリオテストの雰囲気そのままで自信になりましたね」と話していました。

また講師の先生方からも検定項目ごとに専門的なアドバイスを頂き、自分の不足している部分を知ることができ、とても有意義なテストであったと感じました。

この試験を通して経験したことを、今後のスポーツの現場に活かして行ければと思います。

今回このテストを準備、運営して頂いた東京都理学療法士協会スポーツ局の皆様に心より感謝申し上げます。

写真：技能テスト実施の様子

東京都理学療法士協会　スポーツ局　人材育成部　向家　知宏 (浮間中央病院)

【活動報告】2023 オリンピックデーラン板橋大会

・日時：2023 年 11 月 26 日（日）
・会場：区立小豆沢野球場、区立小豆沢体育館、あずさわスポーツフィールド
・参加者：298 人（コンディショニングブース 179 名、サッカー競技体験 228 名）
・参加理学療法士：26 名

　オリンピックデーランは、オリンピックデーを記念して全世界で行われているオリンピックデーイベントのひとつです。オリンピアンと一緒に走ることにより、スポーツの楽しさとオリンピックの基本精神の理解を促すことを目的としています。スポーツ局では毎年オリンピックデーランサポートのご依頼を頂いており、今回も板橋区スポーツ振興課様よりご依頼がありサポートを実施しました。

　参加者は 298 名、参加オリンピアンは 10 名でした。我々理学療法士は、コンディショニングブースの設立・運営、オリンピアンのアテンド、サッカー競技体験補助を行いました。

　コンディショニングブースは体組成分析、足長計測機器を用いての足長計測とシューズの相談、歩行計測を実施し、合計 179 名の方に利用して頂きました。理学療法士が参加者に計測結果のフィードバックを行いました。ご自身の身体や歩行の状況を熱心に聞いている様子が印象的でした。

　オリンピアンアテンドは 10 名のオリンピアンが参加者と共にあずさわスポーツフィールドランニングコースをジョギングする為のサポートを行いました。オリンピアンとコミュニケーションを取りながら、オリンピアンが動きやすい・参加者と交流しやすいよう配慮し、サポートを行いました。

サッカー競技体験補助はサッカー体験（ドリブル・シュート）のサポートをしました。怪我予防のストレッチを紹介するポスターも作成し、競技の楽しさを体験してもらうのと同時に、怪我を予防することの啓発活動も行いました。

　当日は生憎の悪天候でしたが、参加者はオリンピアンと笑顔でスポーツを一緒に楽しんでおり、スポーツの楽しさと素晴らしさを体験してもらう一助になれたと実感しました。ご依頼頂いた板橋区スポーツ振興課様、ご協力頂いた理学療法士の方々に感謝申し上げます。

報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部　生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

【活動報告】江戸川区パラスポーツ初心者教室サポート

・日　程：2023 年 12 月 2 日（午前実施）、2024 年 1 月 13 日、2 月 10 日（午前、午後実施）（計 5 回）
・会　場：江戸川区東部区民館、中平井コミュニティ会館、小岩アーバンプラザ
・参加者総数：延べ 23 名
・派遣者総数：延べ 17 名

昨年の 5 月より江戸川区内の 3 ヶ所の施設で全 5 回ずつ、合計 15 回の「パラスポーツ初心者教室」を開催しております。スポーツ支援・推進部では江戸川区文化共有部スポーツ振興課パラスポーツ係様からご依頼を頂き、参加者のサポートを行っております。

パラスポーツ初心者教室では運動が未経験の方でも無理のない範囲で楽しく体操やストレッチ、筋力トレーニングが行える教室となっております。

今回私が参加した教室では、身体全体の体操とストレッチ、マイティポールというノルディックウォークのようなポールと、ボルレッジというクッションのような柔らかいボールを使用したエクササイズ、最後に参加者同士でチームを組みボッチャを行いました。私は参加者の方が楽しく安全に運動が行えるようにサポートさせて頂きました。

初めて参加された方からは「楽しかった」、「また参加したい」と言った感想を頂いたり、継続して参加されている方からは「こんな運動がしてみたい」、「こういうことができるようになりたい」と言った前向きなお言葉を頂けてとても嬉しく思います。参加者同士やご家族で声を掛けながら運動を頑張る姿は強く印象に残ります。

今後とも世代に関係なく、運動の楽しさを実感して頂けるよう地域の方と連携をとりながらサポート活動に取り組んでいきたいと思います。

報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部　野崎　剛志（大橋病院）

【活動報告】パラフェンシング練習会

・日　時：2023 年 11 月 18 日、12 月 2 日、12 月 16 日、
　　2024 年 1 月 6 日、1 月 20 日、2 月 3 日 (計 6 回)
・場　所：江戸川区スポーツセンター
・参加者：延べ 45 名
・参加理学療法士：延べ 9 名

　江戸川区スポーツセンターで行われている車いすフェンシング練習会のサポートを東京都車いすフェンシング協会様からご依頼を受けてサポートしております。
当練習会では車椅子フェンシングを初めて体験する方が徐々に増えてきております。その場合はどのように車椅子にフィッティングすると練習や競技が安全に行うことができるか、当事者やコーチと話し合い、練習を実施していくことがあります。
　病院業務で経験するフィッティングの知識に加え、競技の特性にも配慮する必要があるため難しさを感じることもありますが、理学療法士として知識を活かす場面でもあり、やりがいを感じております。
障害予防や身体のケアの必要性を参加者へ伝えることはもちろんですが、安全に楽しく競技に参加するためのサポートも理学療法士の重要な役目と考えております。
　引き続き、競技を通じての共生社会実現に向けて、尽力していければ幸いです。

報告者：スポーツ局　スポーツ支援・推進部　宮川大 (ユウ整形外科)

【活動報告】フェンシング大会会場サポート

・日　　時：2023 年 11 月 25 日、12 月 2 日
　　2024 年　1 月 3 日・4 日・5 日・6 日・7 日・27 日・28 日（延べ 9 日間）
・場　　所：北区滝野川体育館、江戸川区総合体育館、世田谷区大蔵第二運動場体育館、駒沢オリンピック公園屋内競技場、港区スポーツセンター
・参 加 者：延べ 2229 名
・派遣者数：19 名

　スポーツ支援・推進部では、スポーツ現場活動を希望する理学療法士を募ってフェンシング競技大会のサポートを継続しております。日本フェンシング協会様、東京都フェンシング協会様、関東学生フェンシング連盟様に加え、この度は江戸川区フェンシング協会様、港区フェンシング協会様から区民大会のサポートのご依頼をいただきました。

　サポート内容は、大会参加選手の試合での応急処置やテーピング等の急性期対応から選手の身体の相談やトレーニング方法指導等を行っております。
大会では、小学生からシニア・ベテランと幅広い年代の選手や海外から参加されている選手への英語での対応などをすることで、日々の臨床では得られにくい経験をしております。
今後も、選手が安全に、そして、練習の成果を発揮できるよう現場活動を通じて得られたことを共有して、今年度の最後の大会まで事故のないよう引き続きサポートに努めていきたいと思います。

報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部　伊藤弘崇（新渡戸記念中野総合病院）

【活動報告】日本ボッチャ選手権サポート

大 会 名：TOYOTA presents 第 25 回日本ボッチャ選手権大会
日　　時：2024 年 1 月 19 日（金）～ 1 月 21 日 (日)
会　　場：墨田区総合体育館
参加選手：74 人 (16 チーム)
参加理学療法士 : 延べ 9 名（各日 3 名）

本大会は日本ボッチャ協会様のご依頼を頂き、医療スタッフとして活動して来ましたので報告致します。

3 日にわたるスケジュールの中、主にフィジオルームで日本ボッチャ協会コンディショニング部の方々と共に、選手のケアサポートに当たりました。東京都理学療法士協会スポーツ部のメンバーは日々入れ替わる必要があったため、当日の様子を伝え合いながら、選手一人ひとりに丁寧に時間をかけ、ストレッチやマッサージを行いコンディションを整えました。

普段の臨床現場で触れることのないパラアスリート特有のニーズに応えるため、日本ボッチャ協会コンディショニング部の方々からアドバイスをもらいながら対応に当たりました。また、大会の円滑な運営にも配慮し、選手たちの日程や集合時間などを考慮しながら対応に当たる必要がありました。

緊急時にはフィジオルームリーダーを中心に迅速で的確な連絡体制が整えられており、感染対策や AED の確認なども含め、選手たちの安全面に十分な配慮を行いました。

パリパラリンピック出場権のかかる大会であり、パラアスリートたちの感動的な瞬間や激闘を通して、医療スタッフとしての責任と誇りを強く感じました。大会終了後の選手たちからの感謝の言葉は、我々の尽力が実り多いものとなったことを示してくれました。

今回の貴重な経験から、スポーツ医療の向上に向けて一層の知識の拡充が求められると感じました。今回ご依頼を頂きました日本ボッチャ協会様、不慣れな活動でも丁寧に指導して頂いた日本ボッチャ協会コンディショニング部の方々、ご協力頂きました参加者の方々、有難う御座いました。

報告者：スポーツ局　スポーツ支援推進部　上野央（自宅会員）

【活動報告】荻窪ユニバーサルタイム

・日　程：2023 年 11 月 23 日、2024 年 1 月 20 日（計 2 回）
・会　場：荻窪体育館
・参加者：延べ 51 名
・派遣者数：延べ 8 名

　杉並区スポーツ振興課様からご依頼を頂き、1 年間活動を継続してきた荻窪体育館でのユニバーサルタイムも、今年度の全日程を終了することが出来ました。
今年度の荻窪ユニバーサルタイムは全 9 回を実施し、昨年度に比べリピーターの方が定着して参加いただけるようになりました。リピーターの方の姿勢の改善や活動量の向上が見られ、身体機能も向上しているように感じております。
　この 1 年を通して、スポーツ振興課様やサポーターのスタッフの皆様、看護師の方、理学療法士の連携は強まり、全スタッフが上手く連携をして運営も円滑にいく様になっております。ユニバーサルタイムが地域スポーツとしてとても活気強くなってきている様にも感じています。
　今年度は上井草ユニバーサルタイム 1 回を残すのみとなりました。今年度の活動の集大成として参加者の方が安全・安心に参加できるようにサポートして参ります。

報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部　西條攻（(株) ブルーリボン）

【活動報告】少年少女サッカーチーム東大和 4FC 障害予防教室

日　時：2024 年 2 月 4 日 (日)
場　所：東大和市立第四小学校体育館
参加者：選手 25 人、保護者・コーチ 20 人
講　師：鈴木享之（長汐病院）
アシスタント：生井真樹先生（世田谷人工関節・脊椎クリニック）
森本孝則先生（Physical Care Room T）
片見奈々子先生（都立大塚病院）
平良寛朗

【内容】

今回の障害予防教室に至った経緯は、昨年 11 月に東京保育士会様からスポーツ局に「秋の研修会」講師依頼（依頼講師：スポーツ局次長鈴木享之先生）があり、その研修会に参加された保育士さんより子どもの通うサッカーチームにて「障害予防教室」を行って欲しいと都士会事務局に依頼があり開催されました。今回幼稚園～小学 5 年生の選手たちが参加しましたが、「東大和 4FC」では、オスグッド病・有痛性外脛骨・踵骨骨端症（シーバー病）・足関節捻挫等のスポーツ障害で悩む選手が多いとの事でした。

まず講義の最初に「成長期」と「姿勢」に着目した実技主体の講座として、運動前後のダイナミック・スタティックストレッチ、遊びを入れたアジリティートレーニングなどを実施し、怪我をしないための姿勢作りのトレーニングを行いました。講座最後には、「パワーポジション !」と号令を掛けると選手達が瞬発的にその構えが取れる様になっており、とても印象深い光景でした。

講座後の「身体の質問コーナー」も含め全体を通して、選手だけでなく保護者や指導者の方も熱心に取り組まれており、とても素晴らしいチームだと感じました。その反面怪我が多い印象でもあり、選手だけではなく、成長期の選手や子供達を持つ保護者や指導者にも、「障害予防の啓発」が重要であり、この様な活動を理学療法士として拡げていく事の大切も実感する事ができました。最後にこの様な機会を頂いた、東大和 4FC チームの選手や保護者、指導者の皆様に心から感謝致します。

報告者：スポーツ局　スポーツ支援・推進部　平良寛朗 (池上総合病院)

【活動報告】青山学院大学フェンシング部サポート

・日　時：2023 年 11 月 18 日、11 月 25 日、12 月 9 日、12 月 16 日、12 月 23 日
　　2024 年 1 月 6 日　（計 6 日間）
・場　所：青山学院大学体育館
・参加者：延べ 106 人
・参加理学療法士：延べ 9 人

　スポーツ支援・推進部では引き続き青山学院大学フェンシング部のサポート活動を行っております。インカレが終了し、4 年生の引退を迎え、新たな世代交代が行われました。

　選手のフィジカルテストも実施し、一人一人に結果をフィードバックする時間を設けました。目標や競技・コンディションについての悩みなどに関するアンケートも取りまとめ、新チームの新たな目標に向かってトレーニングを進めております。選手主体の流れを作りながら、チーム全体の成長を促進していくために、今後もサポートを続けて参ります。

報告者：スポーツ局　スポーツ支援・推進部　平良寛朗 (池上総合病院)

【活動報告】第８回パラスポーツフェスタえどがわサポート

・日　時：2023 年 11 月 19 日 (土)

・場　所：江戸川区スポーツセンター

・来場者：約 600 名

・参加理学療法士数：３名

江戸川区では、11 月 1 日～ 12 月 10 日をパラスポーツ推進月間といたしまして、誰でもパラスポーツを無料で体験できるイベント「パラスポーツフェスタえどがわ」を毎年開催しております。

8 回目となる今年は、障害のある来場者が、多くの体験ブースを安心して参加できるように、理学療法士の目線から提案・サポートし、コンシェルジュの役割を担って欲しいとの依頼を受け、活動して参りました。

来場者の方々は、障害を持ったことでスポーツを楽しむことを諦めている方が多く、各ブースで　体験していただき、体験に留まらず、お住まいの地域で継続できる場所の提案など、各ブースの方々と江戸川区の方々で連携を取り、提案することができました。スポーツを通して共生社会が築かれる、素晴らしいイベントとなりました。

今後も理学療法士として地域の方々の社会活動や共生社会がさらに広がるよう、支援して行ければと思います。

報告者：スポーツ局　スポーツ支援・推進部　鈴木真治（森山ケアセンター）

【活動報告】障害者スポーツセンター見学研修会

【日時】2023 年 12 月 24 日・2024 年 2 月 18 日　9：30 ～ 16：00
【講師】藤川明代先生（専門学校 社会医学技術学院）
　　水口健一先生（東京都リハビリテーション病院）
【会場】東京都多摩障害者スポーツセンター・東京都障害者総合スポーツセンター
【参加者】14 名
【内容】

パラスポーツ部では、地域でスポーツを楽しむ障がい者を支援しております。 障害者スポーツセンターは、障がい者のスポーツ参加や健康増進のために、障がい者専用あるいは障がい者が優先的に利用できる公共のスポーツ施設です。都内には 3 施設あり、今年度はうち 2 施設の見学研修会を実施致しました。東京 2020 パラリンピックで車いすラグビーの日本代表チームスタッフとしてご活躍した藤川先生と、センターの事業として健康相談を請け負っている水口先生をお招きして、トップアスリート支援や地域のパラスポーツについてお話しして頂きました。また、藤川先生の講義では、パラリンピアンと車いすラグビー体験も致しました。その他、センターのスタッフによる施設説明と施設見学案内、障がい者とともにスポーツを体験し、参加者からはパラスポーツに興味がわいた、具体的にどのように活動してよいか理解が深まったとの意見を頂きました。

パラスポーツを通し、障がい者の健康増進や社会参加を促せる PT が増えるよう、引き続き活動を続けて参ります。

報告者：松永彩香（国立精神・神経医療研究センター病院）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】「東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラム」の測定会及び体験会サポートについて

日　時：令和５年６月 25 日・８月５日・９月 18 日・11 月 23 日・
令和６年２月４日（全５回）
会　場：東京都パラスポーツトレーニングセンター
　　中野区立総合体育館
　　武蔵野の森総合スポーツプラザ
参加者：都民（身体・知的・精神障がい者）　延べ 200 名程度
サポート PT：延べ 100 名

　東京都生活文化スポーツ局 スポーツ総合推進部 パラスポーツ課と東京都障害者スポーツ協会が毎年開催している「東京都パラスポーツ次世代選手発掘プログラム」事業内の測定会及び競技体験会のサポートを致しました。初めてスポーツを体験する障がい者の方の身体計測や体力測定し、安心してスポーツ体験できるようにサポートしました。スポーツをきっかけとして、障がい者の方達が生きがいを持って社会参加できるようにこれからも支援していきたいと思います。

報告者：パラスポーツ部　多賀留美

【終了報告】学校保健研修会「学校保健への理学療法士の関わり」

日　　時：2024 年 2 月 6 日（火）19 時～ 20 時
会　　場：東京体育館　第 1 会議場
講　　師：板倉尚子先生 (日本女子体育大学健康管理センター / スポーツ局局長)
補助講師：鈴木享之先生（長汐病院 / スポーツ局次長）
参 加 者：28 名

内　　容：研修会前半の講義では、理学療法士の学校への関りについての制度設計にも携わっている板倉先生より、学校保健の概要や行政と関係法規、スクールトレーナー制度の概要の説明が行われました。また、児童生徒の現代的な健康問題についても挙げられ、東京都理学療法士協会のこれまでの取り組みも紹介されました。研修会後半では、学校現場の経験豊富な鈴木先生の進行のもと、現場で活躍するために必要なスキルを意識した実践トレーニングをグループに分かれて行いました。ポイントとして①分かりやすくて、記憶・印象に残る端的な説明、②児童生徒を飽きさせないテンポ良い説明、③時間内に終えることが挙げられ、参加者を児童生徒に見立てて、ストレッチ指導や姿勢指導、運動指導をそれぞれのグループにて行いました。

本研修会に参加して、学校衛生も時代とともに変化している事や、今後は個人活動から組織運営で関わっていくことの重要性、他団体からの理学療法士への期待もあることが分かりました。実践トレーニングでは、指導の方法を見つめ直す良い経験となりました。本研修で学んだ事を学校現場でも活かしていきたいと思います。

報告者：齋藤弘樹（大橋病院）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】小学 1 年生を対象とした学校安全教育（目黒区立宮前小学校）

日　　時：2024 年 2 月 17 日 (土)　8:35 ～ 9:15、11:30 ～ 12:10
会　　場：目黒区立宮前小学校
対　　象：小学校 1 年生
参加者数：1 年 1 組 20 名　1 年 2 組 22 名　合計 42 名
講　　師：佐伯　潤（スポーツ局外部委員／国士舘大学）
アシスタント：渡邊祐介（子どもの健康・安全部部長／浮間中央病院）
　　鈴木享之（スポーツ局次長／長汐病院）

内　　容：

目黒区立宮前小学校よりスポーツ局 / 子どもの健康・安全部に、土曜参観日に合わせた小学 1 年生 46 名を対象とした学校安全教育授業の依頼を頂いた。子どもの交通事故死亡率は 7 歳前後が最も多いため、人の形の模型に光を当て反射材の有無により、視認性がどれだけ変化するかを体験させる授業を行った。

人を探索するレスキューゲームとした事により、子ども達の興味を増加させると共に、反射材が有る場合の方が視認性の向上に繋がる事を参観した保護者にも気づかせる事ができた。また、反射材と共に小型のライトを携帯する事の有用性も理解させる事ができた。この様に災害に関する安全教育においても、理学療法士としての目線で、移動時の姿勢教育や怪我をしない環境設定と言った「怪我をさせない・命を守る」為の安全教育（障害予防教育）を行う事は、これからの時代を担う児童生徒の将来を守る大切な活動だと感じた。今後も、赤ちゃんからお年寄りにいたるまで、あらゆる世代に笑顔を届けられる理学療法士を目指し、東京都理学療法士協会の活動にも積極的に取り組み研鑽を積んでいきたいと思う。

報告者：鈴木 享之（長汐病院）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】目黒区立宮前小学校での安全教育（防災サイコロ）

日　　時：令和６年１月23日（火）、２月７日（水）
会　　場：目黒区立宮前小学校
対　　象：小学４年生、５年生
参加者数：４年生２クラス：48名　５年生２クラス：47名
講　　師：森本孝則先生、佐伯潤先生
アシスタント：鈴木享之先生、岩山睦先生、渡邊

この度､目黒区立宮前小学校からのご依頼で安全教育に伺わせて頂きました。最近では能登半島での地震があり、小学生も地震が起こった時にどのように行動するのか考えている児童もいます。今回は対象が小学生であり、学校から自宅の範囲で何をしている時に地震が起きると最悪な状況なのか、なぜ最悪なのか、どうすれば回避できるのか、について防災サイコロを使用して児童の皆さんと考えてきました。
児童の視点でも学校内や自宅での危険な場所は考えているようでしたが、iPadが壊れる、味噌汁がこぼれるなどの意見も多くあり、実際に自身の危険について考えることは難しいようでした。児童の生活の身近なところから安全について考えていくことが必要なことが分かりました。

授業の後、１月28日には東京で地震が起こり、23日に防災サイコロの授業を受けた児童からの言葉を担任の先生からご連絡を頂きました。

「28日にじしんがあって、けっこうゆれました。その日はテストだったので、防災サイコロで備えが必要なのをじっかんしました。急にじしんはくるので、やっぱりちゃんとそなえていきたいです。じしんはおもったより大きかったです。」

児童の印象に残るような教育を進めていければと思います。

報告者：子どもの健康・安全部　部長　渡邊祐介（浮間中央病院）

【活動報告】共同研究事業　①

子どもの健康・安全部では、他団体や企業と共同研究事業も行っております。

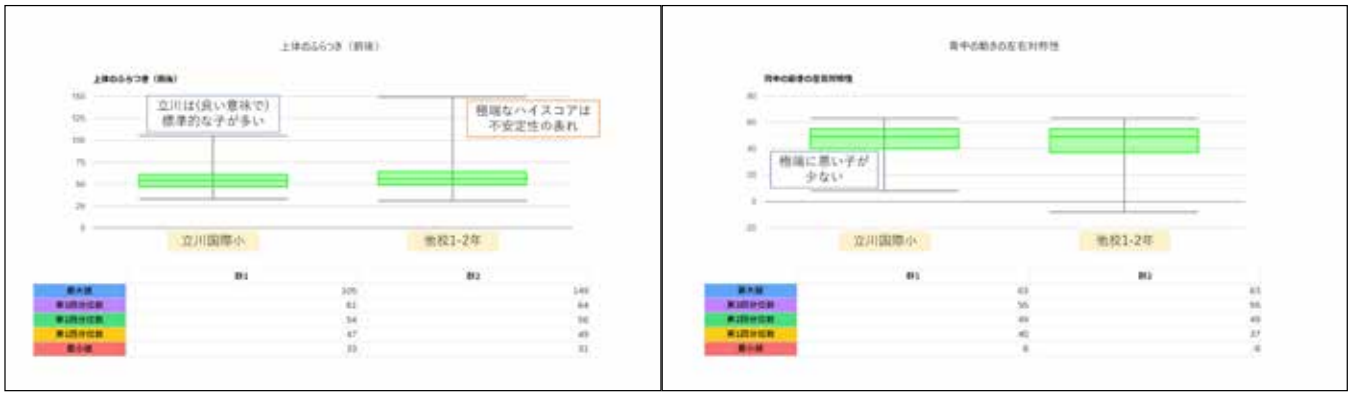
① RainboW Walking 事業との共同活動

日　　時：2023 年 8 月 29 日（火）（計測会）
　　2023 年 9 月 26 日（火）（運動指導）
会　　場：東京都立立川国際中等教育学校附属小学校　体育館
対　　象：計測会 132 名（1 年生：65 名・2 年生・67 名）
　　運動指導 190 名
スタッフ：板倉尚子氏・渡邊祐介氏・齋藤弘樹

内容：一般社団法人 RainboW Walking が RainboW Walking 事業を行っており、この事業は 1. 学校関係者（子供・教師・PTA・教育委員会など）2. 歩行の専門家（地域の理学療法士）3. 支援者（地域の企業・個人）の 3 者を結ぶことにより、生涯渡って自身の脚で歩くことが出来るよう、子供たちが「歩行」を科学的に学ぶ場を提供するとされています。（一般社団法人 RainboW Wlking HP より）

今回、東京都立立川国際中等教育学校附属小学校が東京都の取組校となり、歩行の専門家として東京都理学療法士協会の子どもの健康･安全部が関わることとなりました。1 日目は歩行健診システム「THE　WALKING」（マイクロストーン株式会社）による計測会に参加し、参加する子供たちの歩行健診を行いました。傾向として参加校の児童達は他校の児童達と比べ、大きな差は見られないが、全体として標準的な歩容の児童の子が多く、個人差が少ないということが分かりました。この結果をもとに、2 日目は、保護者が授業を見学する中、児童達に歩行のポイントの指導をしたり、健診システムから導き出されるおすすめの体操を解説しながら指導を行いました。計測会の時は機器を装着したこともあり、やや緊張した表情でしたが、歩行のポイントや体操指導の際には楽しみながら取り組んでもらえました。本事業は経過をみていくことも計画されているので、引き続き共同して関わっていきたいと思います。

＜一般社団法人 RainboW Walking HP より＞



＜計測結果の一部を抜粋＞

【活動報告】共同研究事業　②

② これで防げる！学校体育・スポーツ事故　シンポジウムにおける理学療法士によるワーク

日時：2023 年 9 月 30 日（土）13：00 ～ 17：00

会場：早稲田大学 8 号館 106 教室　及び Zoom ウェビナーのハイブリッド方式

講師：板倉尚子氏・鈴木享之氏・齋藤弘樹

対面参加者：150 名

内容：子どもの健康・安全部では主に学校で起こるスポーツ関連の事故による傷害を予防するため、「これで防げる！学校体育・スポーツ事故」と題するシンポジウムに関わり毎年企画・開催に協力をしています。今年度は、これまで取り挙げてきたテーマの振り返りや再検証を行うという内容でシンポジウムは開催されました。本シンポジウム内において、子どもの健康・安全部では「現場で使えるケガ予防の実践」という内容で参加者と一緒に体験型のワークプログラムを行いました。理学療法士ならではの内容で参加者にもとても興味を持ってもらえた内容でした。

様々な分野の専門家と協力し、子ども達の怪我や傷害予防に対する活動を子どもの健康・安全部として今後も積極的に行っていきたいと思います。

報告者：齋藤弘樹（大橋病院）

【活動報告】町田市立小川小学校での姿勢と体づくりについての授業

日　時：令和６年１月21日（土）
会　場：町田市立小川小学校
対　象：小学３年生
参加者数：３クラス　計72名
講　師：森本孝則先生（安全教育株式会社）
アシスタント：鈴木享之先生・齋藤弘樹先生・翁長夏子

この度、町田市立小川小学校からご依頼を頂き姿勢と体づくりの授業に行って参りました。全国の小・中学校の体力・運動能力・運動習慣はコロナ流行以降、低下傾向にあります。小川小学校でも身体活動の二極化、スポーツ障害予防・体力・運動能力低下があると伺い、予防のため、姿勢とコーディネーショントレーニングの授業を実施しました。

まず、前額面・矢状面におけるランドマークを用いた姿勢指導を行い、次にクラス毎に分かれて「ボールトレーニング」「アニマルトレーニング」「ラダートレーニング」を行いました。全児童が楽しそうに取り組めていた様子が印象的でした。

また、この日は授業参観日であり、親御さんから児童へ声援が送られ、活気あふれる授業となりました。今後も保健教育・保健指導・安全教育を学校やご家庭に提供できるよう、理学療法士として取り組んでいきたいと思います。

お忙しい中、このような場を提供して下さった小川小学校の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

報告者：翁長夏子（Ｂ＆Ｊクリニック）

【活動報告】神田女学園　安全教育

日　　時：2024 年 1 月 30 日 (火)　9 時～ 12 時

会　　場：神田女学園

対　　象：高校 3 年生

参加者数：89 名

指導教官：佐伯　潤先生 (スポーツ局外部委員)

教　　官：鈴木　享之先生（長汐病院）

渡邊　祐介先生（医療法人社団　博栄会）

岩山　睦先生（浮間中央病院）

森本　孝則（安全教育株式会社）

本教育訓練は、自分の安全が最優先であると学習をした上で、自分の命を守った後の行動、すなわち共助について学ぶ訓練です。前半の座学では、①腰痛のリスクと制限荷重、②人体の血液量と致死出血量の計算、外観判断の基準、③他人の血液等による感染症のリスクと PPE(Personal Protective Equipment: 個人用保護具) としてサージカルグローブの着脱の実技訓練、④ PPE としてヘルメットの正しい被り方、⑤要救助者発見時の声かけにおける注意点、⑥要救助者の呼吸確認の方法、⑦内出血の有無を確認する CRT(毛細管再充満時間) の方法等、多岐に渡って学習した。実技演習では、搬送法（向かい抱き搬送法、体位転換 (ログロール)、毛布等を担架の代用とする搬送法）を実施し、後半は学習した内容を踏まえて、生徒を要救助者役と救助者役に分け、状況付与による複数傷病者発生を想定した現場での救助搬送訓練を実施した。

当日の様子は、学生が要救助者役として迫真の演技をし、救助者は班で声を掛け合いながら搬送を行う等、真剣な様子がみられました。技術として搬送等が行うことが出来なくても、自身が行うことが出来る事を積極的に探し、要救助者に寄り添って声を掛け続ける等、役割を全うしていました。人命救助の技術だけでなく、精神面も含めた安全の助けとなる行動が学習出来たのではないかと感じました。

報告者：森本孝則（安全教育株式会社）

【活動報告】神田女学園中学校高等学校での安全教育

日　　時：令和６年１月15日（月）、19日（金）、２月16日（金）
会　　場：神田女学園
対　　象：中学１年生から３年生
参加者数：１年生：44名　２年生：28名　３年生：41名
講　　師：１年生：鈴木享之先生　２年生：渡邊祐介　３年生：鈴木享之先生
アシスタント：佐伯潤先生、森本孝則先生、岩山睦先生

この度、神田女学園からのご依頼で安全教育に伺わせて頂きました。対象が中学生ということもあり、自宅外で被災した場合の行動について防災サイコロを使用しながら考えてきました。

まずは自身の安全を優先すること。発災後には停電などライフラインの停止から危険が増加すると思われます。生徒の中には「走って帰る」「家に帰る」という意見もありましたが、公共交通機関を利用せずに夜間などに無理な移動をして危険をおかすよりも復旧をあきらめずに待つということも大切になるということをお伝えできました。一人でいてもあきらめずにタイミングを待つことで、家族と出会えます。安全な行動という視点でも安全教育ができればと思います。

報告者：子どもの健康・安全部　部長　渡邊祐介（浮間中央病院）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】富士見台小学校　安全教育

日　　時：2024 年 2 月 16 日 (金)

会　　場：豊島区立富士見台小学校

対　　象：5 年生

参加者数：計 50 名（5 年 1 組：26 名、2 組：24 名）

指導教官：鈴木　享之先生（長汐病院）

森本　孝則（安全教育株式会社）

教　　官：佐伯　潤先生 (スポーツ局外部委員)

富士見台小学校では昨年度から「防災サイコロ」を実施しており、今年度も本教育訓練をご依頼頂きました。今年の初めに、能登半島地震が生じたことにより、ますます防災に対する意識が高まっているように感じます。しかし、一般的に防災訓練というと避難訓練一辺倒になりがちです。本教育訓練では子どもが保護者や教職員といった近しい大人が傍にいる状況以外についても視野を広げ、いつ、どこで、災害が発生したとしても安全を確保できる知識・技術の学習が、「生きる力」として必要であると考え、子どもが 1 人でいる状況での災害発生に備えた安全な行動の学習を促すものです。

当日の生徒は、とても活発に議論をしていたことが印象的でした。指導教官として、こちらの問いかけに生徒が前のめりで聞いてくれる姿勢を大変うれしく思いました。本教育訓練中に、頼るべき大人の基準の 1 つとして「制服を着ている人」という振り返りを行いました。生徒の回答からも「制服」「駅員」等、キーワードとしている回答が得られている事から、一定の学習が出来たのではないかと思います。

災害時の安全性を高めるためには、家族で避難場所を決める等の災害時の約束事の他に、知らない人には付いて行ってはいけない等の日常での約束事が、日常生活の安全性を高めるだけでなく災害時の安全性を高める事へと繋がっていくと考えます。

報告者：森本孝則（安全教育株式会社）

【活動報告】府中市立第六中学校での運動プログラム

日　　時：令和６年２月１日（木）、６日（火）、16 日（金）
会　　場：府中市立第六中学校
対　　象：中学１年生から３年生
参加者数：第１回：計 86 名　第２回：80 名　第３回：85 名
講　　師：第１回：鈴木享之先生　第２回：渡邊祐介先生　第３回：森本孝則先生
講師補助：延べ 15 名

この度、府中市教育委員会より、ご依頼があり、府中市第六中学校へ運動指導へ伺わせて頂きました。第１回はケガをしにくい身体つくり、第２回は疲れにくい身体つくり、第３回は姿勢を良くする運動についての指導となりました。

児童生徒の運動について、運動神経が著しく発達する 5~16 歳のゴールデンエイジと呼ばれる時期の過ごし方が、運動神経・能力に大きな影響を与えるといわれています。私たちは骨・筋肉が未発達な成長期の生徒に対して、筋の柔軟性や不良姿勢の改善と、それによるケガの予防を目的として保健教育を行いました。第１回目は①自分たちは成長期である。②けがの予防には姿勢が大切である。という２つのキーワードを軸に授業を実施しました。柔軟性や姿勢を児童生徒同士で評価し合い、柔軟性を高めるためのストレッチや良い姿勢・構えとは何かを実践を交えて学びました。加えて、ケガをしにくい身体は、パフォーマンスの高い身体と同義であるという事も学びました。生徒たちからは「ストレッチをしたら体が柔らかくなった」「(良い姿勢･構えが)思っていたものと違っていた」などの意見も聞かれ、改めて自分の身体に向き合う機会になりました。このような活動を通して、成長期の子どもたちのケガを予防しながら、よりよい運動発達を促す支援をしていければと思います。

報告者：藤井佳奈（東京北医療センター）

【活動報告】産後のリハビリテーション

当事業は昨年に引き続き「NPO 法人東村山子育て支援ネットワークすずめ」からの依頼を受け東村山子育て総合支援センターころころの森にて開催致しました。手探りであった昨年とは異なりＮＰＯ法人スタッフの皆様とも顔見知りあることで十分に連携がとれ結果、利用者様のニーズに合致したサービスが提供できたものと思われます。

産後リハビリテーションは未だ保険診療としては認められてはいませんが少子化が叫ばれる中、こうした我々専門職の地道な活動が社会課題解決の一助になるものと考えます。また今回のような継続的な取り組みが各地域で展開されることでウイメンズヘルスケアの重要性が認知され将来的には保険診療として評価されていくのかもしれません。

今後も地域に密着した事業を継続的に展開し都民の健康維持、増進に貢献していきたいと思います。

報告者：健康増進部　小澤伸治（TMG 本部）

【活動報告】子ども食堂

統計方法によっても異なりますが日本の貧困率は 15%ともいわれ先進国の中で上位となっているのが現状で早急に解決すべき社会課題であると言えます。貧困による子供への影響についての研究は多々ありますが貧困家庭では栄養の問題と共に親子間でのコミュニケーションや運動機会が減少し運動能力や体力が低下する傾向にあるという報告も散見されます。

今回、健康増進部は NPO 法人と連携し子供食堂利用者に対する健康運動指導教室を企画、現状の把握と課題解決への模索を試みました。添付写真の如く食事の前後、多くの方々に御参加頂き体を動かすことの楽しさを共有させて頂きました。また当該 NPO は利用者を子供に限定していないため高齢者の利用もあり、子供から高齢者まで地域内で世代を超えた交流を深める機会が提供できたものと思われます。企画、提供した我々も子供やお年寄りの笑顔に癒され充実した時間を過ごすことが出来ました。また親御さんたちが抱える健康問題に相談対応する中で我々の持つ専門性を活かす場にもなったと考えています。

貧困は大変重いテーマではありますが今回の経験を通じ、我々理学療法士も健康維持や増進を担う専門職として課題解決に向け貢献できる可能性があるように感じました。今後も自治体や NPO と連携しつつ活動を継続していきたいと思います。

報告者：健康増進部部長　小澤伸治（TMG 本部）

令和５年度　診療報酬に関する調査報告

令和5年度　診療報酬に関する調査報告

東京都理学療法士協会会員の所属する全医療施設を対象に「令和5年度診療報酬に関する調査」を実施させていただきました。以下に詳細を報告致します。

調査期間：2023年9月26日～10月31日　　回答方法：Googleフォームを利用したアンケート形式

広報：東京都理学療法士協会ホームページ掲載、FAX通信、ブロック・支部へメール配信

回答数：130施設　　回答率：21.9%

1. 回答者情報

－1. 所属ブロック（回答施設数）

区中央部・区南部・島しょ	10
区西南部・区西部	24
区西北部	18
区東北部・区東部	29
西多摩・南多摩	28
北多摩	11

－2. 所属施設での立場（施設数割合%）

施設長	1.5
部長・課(科)長	55.4
係長	13.1
主任	21.5
チームリーダー（などの管理職）	2.3
一般職員	6.2

－3. 経験年数（施設数割合%）

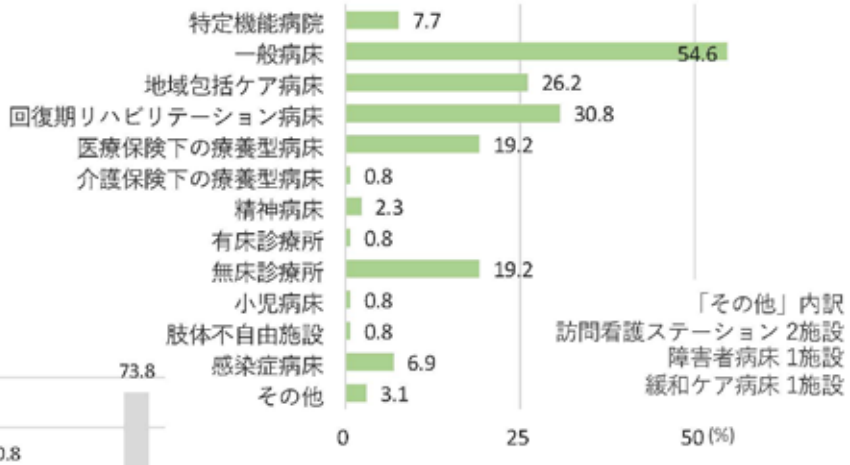
1～5年目	1.5
6～10年目	6.2
11～15年目	20.8
16～20年目	34.6
21～25年目	20.8
26～30年目	7.7
31年目以上	8.5

2. 回答施設の基本情報

－1. 病床数

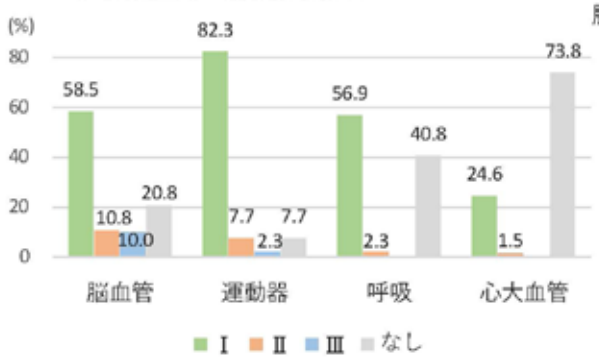
病床数	施設数割合(%)
無床	20.8
1～99床	13.1
100～399床	53.1
400～699床	10.0
700～999床	2.3
1000床以上	0.8

－2. 病院機能（施設数割合）



「その他」内訳
訪問看護ステーション 2施設
障害者病床 1施設
緩和ケア病床 1施設

－3. 施設基準（施設数割合）



＜その他の施設基準＞
がん30.8%、　難病1.5%
認知症0.8%、障害(児)者1.5%

3. リハスタッフ数

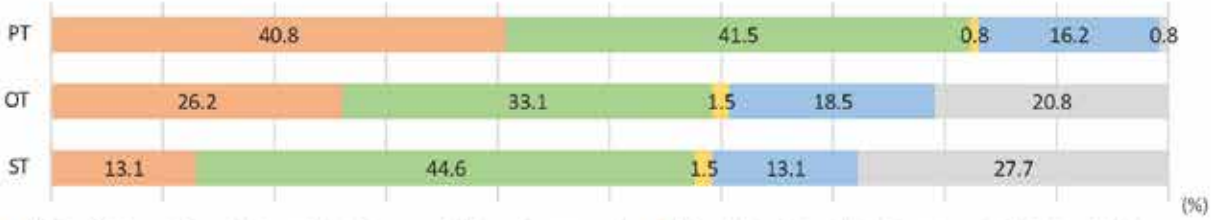
－1. スタッフ数平均（人）

1

令和５年度　診療報酬に関する調査報告

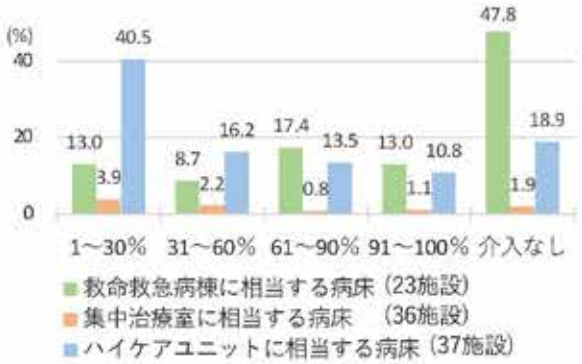
渉外局医療報酬部

－2．スタッフ人員動向　昨年比（施設数割合）



■増員（施設の都合で増員。退職者分のみの補充は含まない）　■維持（昨年度と人数変化なし。退職者分は補充）
■減員（施設の都合で減員）　■減員（退職者分を募集したが補充できず）
■所属なし

4．病期機能別リハ処方割合（施設数割合）

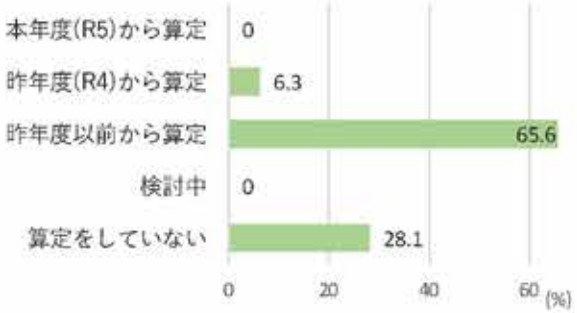


その他の機能を有する病床のリハ処方割合

	処方割合	施設数		処方割合	施設数
感染症(コロナ病床を含む)	1～30%	5	緩和ケア	10～50%	2
	50%	1		60%	1
小児	1～30%	1		100%	1
結核	50%	1	精神科病棟	1～30%	2
認知症治療病棟	20%	1		70%	1

5．早期離床・リハビリテーション加算

－1．算定状況（施設数割合）対象：32施設



－2．算定していない理由（施設数割合）回答：9施設（複数回答）

－3．昨年度改定（加算対象となる治療室の見直し）の影響（施設数割合）対象：32施設

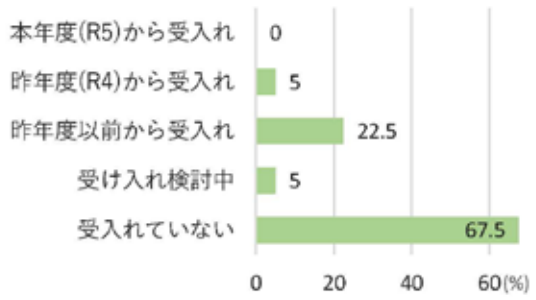
影響があった	15.6%
影響はなかった	81.3%
不明	3.1%

2

令和５年度　診療報酬に関する調査報告

6. 回復期リハビリテーション病棟（対象：40施設）

－1a. 循環器疾患患者の受入について（施設数割合）

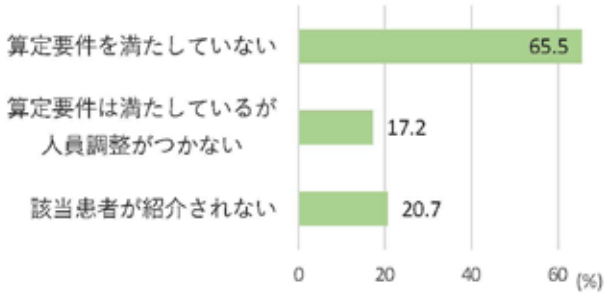


－1b. 循環器疾患患者の算定区分（回答：算定11施設）

・心大血管疾患リハビリテーション料　18.2%

・廃用症候群リハビリテーション料　81.8%

－1c. 受入れていない/受入れできない理由（回答：29施設、複数回答）



－2. 昨年度改定（入院料の評価体系および要件の見直し）の影響　回答：24施設

影響あり(7施設)	29.2%
影響なし(16施設)	70.8%

7. 地域包括ケア病棟（対象：34施設）

－1. 入棟経緯

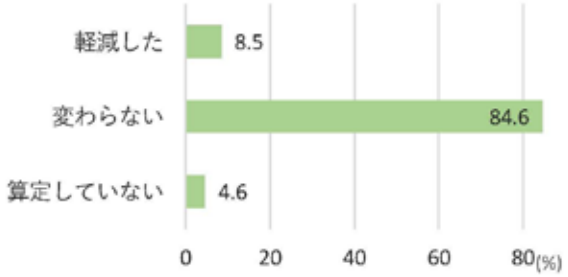
	施設数割合
自院内の急性期病棟から	30.6 %
他院の急性期病棟から	24.7 %
自宅からの入院受入れ	29.1 %
介護施設等からの緊急入院受入れ	17.9%

－2. 昨年度改定（入院料の見直し、入院料の評価体系の見直し）の影響　回答：14施設

影響あり(8施設)	57.1%
影響なし(6施設)	42.9%

8. 実施計画書について

－1. 2回目以降の計画書の署名について、書類業務の負担は軽減したか（施設数割合）



－2a. 運動量増加機器加算について（施設数割合）

算定している	5.4%
算定を検討中	3.1%
算定していない	91.5%

－2b. 算定機器（複数回答可）回答：算定7施設

歩行神経筋刺激装置	5施設
能動型上肢用他動運動訓練装置	2施設
能動型展伸・屈伸回転運動装置	1施設

－2c. 算定していない/できない理由（複数回答可）回答：123施設

算定対象機器がない	75.6%
算定要件を満たすことができない	24.4%
機器はあるが費用対効果面（時間がかかる、スタッフ不足など）で算定していない	13.0%
機器使用での治療期間が算定要件を満たさない	4.9%
その他	1.6%

令和５年度　診療報酬に関する調査報告

渉外局医療報酬部

9．運動器リハビリテーション料の算定要件見直し

対象：施設基準 運動器リハ料算定　120施設

「糖尿病足病変」が主病名としてリハ処方が出るか

10．リハ科の収益以外で施設の収益・施設基準にかかわる加算への理学療法士の関わり（回答：63施設、自由記載を集計）

施設基準に関わるもの（専任の常勤理学療法士）

	施設数
排尿自立支援加算／排尿ケアチーム	15
呼吸ケアチーム	9

その他の施設基準に関わるもの（施設内の委員会やチーム活動）

	施設数
栄養サポートケア加算	8
認知症ケア加算	6
二次性骨折予防継続　管理料	8
透析時運動指導等加算	5
感染対策チーム／感染対策向上加算など	3
褥瘡対策チーム	3
医療安全対策加算	2
緩和ケアチーム	1
時間内歩行試験	1
精密知覚機能検査	1

11．介護との連携

－1．算定している加算（複数回答、施設数割合）

目標設定等支援・管理料	66.2%
リハビリテーション計画提供料	33.1%
介護支援等連携指導料	9.2%
介護保険リハ移行支援料	3.8%
どれも算定していない	20%
該当施設でない	7.8%

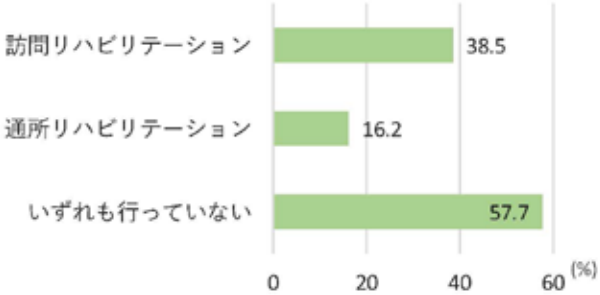
－2．「目標設定等支援・管理料」を算定していない理由（回答：9施設、記述を集計）

書類業務過多 時間不足	6施設
他職種との連携不足	3施設
該当者がいない 在院日数が短い	1施設

－3．「リハビリテーション計画提供料Ⅰ」を算定していない理由（回答：27施設、記述を集計）

該当者が少ない	11施設
その他の手段で情報提供	9施設
事務作業軽減、業務過多	6施設
他職種・地域との連携不足	1施設

－4．みなし指定サービス　（施設数割合、複数回答）



4

令和５年度　診療報酬に関する調査報告

－5. 介護保険施設との連携手段（記述を集計）

＜出現頻度が多いもの＞
・退院前カンファレンス
・報告書・サマリー作成
・サービス担当者会議
・電話連絡

（図は自由記載文をUserLocal社テキストマイニングツールを使用し解析）

12. 収益について

－1. 施設全体の収益　昨年比（施設数割合）

－2. リハ科の収益　昨年比（施設数割合）

【まとめ】　※前年度までの調査結果もホームページで公開しています

医療報酬部は令和2年度調査より「新型コロナウイルス感染症」に係る事項も調査しておりましたが、令和5年5月より感染症法上の位置付けが5類感染症となり、施設により対応が大きく異なり一定の評価が行えないため、本年度より設問項目を変更して実施しました。

回答施設の背景：例年と比し、回答施設の基本情報に大きな変化はなかった。
（昨年度より無床診療所や訪問看護ステーションからの回答が増加傾向。本年度は昨年度と同程度。）

リハスタッフ数：常勤の平均スタッフ数は例年と同程度。スタッフの人員動向は昨年と比し、PTでは昨年調査では22.3%、今年度調査では40.8%が増員(施設の都合で増員。退職者分の補充は含まない)であり、人員動向が大きく異なった。 OT、STも同様に増員した施設割合は増加していた一方、OT、STは減員（退職者分を募集したが補充できず）した施設数割合も昨年より増えていた。いただいたご意見の中には「働き方改革で増員となった」「他職種への転職を理由に退職するスタッフが増えたと感じる」との意見があった。

病期機能別リハ処方割合：高度急性期病床のリハ処方割合では施設により割合は異なっていた。
急性期病床／慢性期機能を有する施設のリハ処方割合は例年と大きな変化はなかった。地域包括ケア病床・病棟を有する施設のリハ処方91～100%の割合が24.4%であり、昨年調査7.5%と比較して増加していた。昨年度改定では地域包括ケア病棟入院料の評価体系見直しがあり、施設により対応が異なることで、リハ処方割合にも変化があったと推測される。今後は特に急性期でのリハ介入の在り方が課題となっており今後注意深く監視する項目と考える。

令和５年度　診療報酬に関する調査報告

渉外局医療報酬部

早期離床・リハビリテーション加算：本年度から、加算算定開始が改定の影響によるものなのかを調査できるよう設問項目を修正し実施した。昨年度から加算算定している施設数割合は対象施設の6.3％であった。6割以上の施設は昨年度以前から算定しており、昨年度改定（加算対象となる治療室の見直し）の影響が「あった」と回答した15.6％は、全て加算算定施設だった。今後も動向を追っていく。

回復期リハビリテーション病棟：昨年度の改定により「急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患または手術後の状態」の患者が入院できるようになった。受け入れている施設は対象施設の2割ほどであり、8割が「廃用症候群リハビリテーション料」で算定していることがわかった。受け入れできない理由として算定要件や人員調整のハードルが高いこと、特に「心大血管疾患リハビリテーション料」算定のための医師の確保や病棟医師の病態管理が難しいとの意見があった。循環器対策基本計画に則ったリハ提供体制の構築は今後も推進が強化されていくことが予測されるため、算定施設のノウハウなどの調査を検討したい。来年度改定では回復期リハビリテーション入院料に関して議論が上がっており今後の改定内容を注視し、それに応じた調査を継続していく。

地域包括ケア病棟：回復期リハ病棟同様、昨年度改定では入院料の評価体系の見直しがあった。入棟経緯は昨年と大きな変化はなかった。回答施設数が少ないが、改定の「影響があった」と回答した施設は57.1％であり、「人員配置を見直した」「レスパイト、緊急入院を意識的に増やした」との意見が多数あった。

リハビリテーション実施計画書：昨年度改定では署名欄の取扱いの見直し（初回を除き条件を満たせば署名を求めなくて差し支えない）があったが、書類業務の負担が軽減したと回答した昨年度調査と同様で少数であり、変化していないことがわかった。令和2年度改定で新設された「運動量増加機器加算」は、算定対象機器が緩徐に増加してはいるものの、加算算定している施設は本調査では例年増えず、機器が高額なことや算定要件、費用対効果の面などが算定施設が増えない要因として考えられる。

運動器リハビリテーション料の算定要件見直し：昨年度改定より「運動器リハビリテーション料」の対象となる疾患に「糖尿病足病変」が加わり算定状況を調査した。対象施設の1割ほどで算定していた。一方で、算定要件が変更になったことを本調査で知ったとの意見が数件あった。

リハ科の収益以外での理学療法士の関わり：主に病院では、疾患別リハビリテーション料などのリハビリテーション科としての収益以外でも、施設基準の要件で必要な関わりや施設の収益に関する加算、委員会・チーム活動などがあり、どのように関わっているのかを調査した。自由記載としたため、63施設から意見をいただいたが、施設基準の要件に「専任の常勤理学療法士」とある排尿自立支援加算が15施設と最も多く、ついで呼吸ケアチームへの参加が9施設であった。そのほかにも表の通り施設基準に関わる加算などに理学療法士が関わっていることがわかった。業務調整の工夫や悩みなど様々なご意見をいただいたが、誌面の都合上、全てを掲載できないことをご理解いただきたい。来年度以降、設問項目を工夫し、他職種連携やチーム医療推進のため業務時間内にどのように関わりを持っているのかも含めて継続調査としたい。

介護保険との連携：例年と変化はなかった。連携手段として家族や外部施設スタッフとの情報交換に、どの程度ICT活用が普及しているのかも今後は調査していく。

以上

本調査にご回答いただいた施設にはこの場を借りて感謝を申しあげます。
来年度も継続して診療報酬に関する調査を実施予定です。ご協力よろしくお願い致します。
医療報酬部では、講習会の開催、診療報酬に関する相談・助言事業を行なっております。
詳細は東京都理学療法士協会ホームページをご覧ください。

執筆投稿規定

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】

1. 論文構成

1）標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。

2）キーワード：標題及び要旨から 3 個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。3）著者名、所属名

4）要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて 400 字程度で記載する。

5）本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。

① はじめに（序論、諸言、まえがき等）

② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が 3 名以上の場合、最初の 2 名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

＜表記例＞

・藤田信子，桝田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動―筋電図学的分析．理学療法学 ,17:27-30,1990.

・Sepic,S.B,Murray,M.P,et al.:Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women.Am.J.Phys.Med,65:75-84,1986.

・真島英信，猪飼道夫：生体の運動機能とその制御 . 杏林書院 , 東京 ,1972,pp185-193.

・Junda,V.:Muscle Function Testing Butterworths ,London,1983,pp224-227.

6）図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

2. 原稿規定分量

原則として 400 字詰め原稿用紙 20 枚・8000 字以内とする。

3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字，単位は国際単位系　（SI 単位）を用いる。

4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

5. 表紙頁，著者頁

論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード (3 個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先（住所･電話番号･Email アドレス）を記載する。表紙頁，著者頁の後に要旨・本文・図表を改めて記載する。

6. ページ番号・行番号

原稿にはページ番号（最下部中央）と本文右（または左）に５行ごとに行番号を記載する。

【原稿送付方法および連絡先】

1）原稿送付先

原則として投稿原稿一式を１つのファイルにまとめ、電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。

2）原稿送付先および連絡先

〒 189-0024　東京都小金井市中町 2-22-32

社会医学技術学院　　理学療法学科

(担当者) 中山雅和

TEL：042-384-1030

FAX：042-384-8508

E-mail：pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

（平成 31 年 1 月 31 日　改定）

編集後記

東京都理学療法士協会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？ 229 号は全５９ページと過去最大の掲載量となり、最早ニュースというより報告書の体となってきた印象がございます。ページ数につきましては発行頻度を上げる等の対策が必要かもしれません。特に地域活性極管轄の各支部での活動が活発となってまいりました。また第４３回東京都理学療法学術大会第２報ならびに第５９回日本理学療法学術研修大会での広報活動を取り上げております。また倫理委員会からのお知らせや、渉外局医療報酬部からの調査報告も必見の価値があります。また東京都理学療法士協会広報部では Twitter、facebook、Instagram の SNS アカウントを運用しております。様々な媒体を通じて東京都理学療法士協会の活動は発信してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。(M.I)

X（Twitter）

https://twitter.com/TPTA_PR2023

facebook

https://www.facebook.com/profile.php?id=100091964630282

Instagram

https://www.instagram.com/tpta_pr2023/

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

10,618 名（令和６年２月２５日現在）

（事務局）　〒 151-0053

東京都渋谷区代々木 1-58-7　ヴェラハイツ代々木 201

Tel：03-3370-9035　FAX：03-3370-9036